

女性 開発 コンサルタント 座談会

生活者の視点に立った 女性ならではの援助を 実現したい

〜相手がいるなら結婚は早く！

それぞれの経緯で、
現職へ

まず、開発コンサルタントの仕事に就くまでの経緯を聞かせて下さい。

土生 正直なところ、就職の際に開発コンサルタントを考えたことはありませんでした。大学では比較政治学を専攻しましたが、卒業後はある国の在日大使館の経済部で日本企業誘致の仕事をしていました。その後、監査法人で海外進出のコンサルティングをするようになり、やがてベトナムへの投資についての本を大学の先生とともに執筆したのです。そのころからですね、この仕事を意識するようになったのは。



おつきのりこ
小槻 倫子さん
国際航業株式会社
海外事業部 営業企画部
主任技師

中川 私は修士課程で資源関係の工学分野を専攻していたのですが、開発援助としてエネルギー関係の仕事ができそうだったことと、女性技術者を育てようとしていたことを知り総合職として日本工営に入社しました。特に開発コンサルタントだからという理由で今の仕事を選んだ、というわけではありませんでした。

小槻 大学卒業後すぐ就いたのが 海外コンサルティング企業協会（E C F A）の仕事でした。コンサルタントについてよく知らないまま、企業やコンサルタントの方々と仕事をしていくうちにコンサルタントに魅力を感じ始めたのです。4年ほど勤めた後、専門をしつかり身に付けようと思い環境科学と環境工学の修士課程を修了して復職しました。その後、今の会社に転職し、コンサルタントの仕事を始めたいというわけです。

土生 先生さんが本格的にこの仕事にタッチするようになったのは、どの辺りからですか。

中川 私は修士課程で資源関係の工学分野を専攻していたのですが、開発援助としてエネルギー関係の仕事ができそうだったことと、女性技術者を育てようとしていたことを知り総合職として日本工営に入社しました。特に開発コンサルタントだからという理由で今の仕事を選んだ、というわけではありませんでした。

出張しないコンサル タレントは、歌わないカ ナリアのようなもの？

より良い援助活動をするうえで、女性だからこそ可能なこと、逆に女性ゆえに難しいところはありますか。

土生 女性の方が生活者の観点に立てますし、ジェンダーを意識した制度を造りやすいと思いますよ。また、細やかな完成度の高い仕事をする傾向がありますね。

中川 プロジェクトに女性が入っていると、現地のカウンターパートナーや地元の女性しか知らない情報を入手しやすいです。また、たとえば初殻を発電燃料にする調査の際に女性同士でインタビューをしていると、初殻が実は家庭で一番安い調理用燃料として使用されているということがわかり、発電にまわすと家庭から燃料を奪うかもしれない、ということに気づいたことがありました。

小槻 あまりこれといって思い浮かばないのですが、私の専門でもある廃棄物処理の分野でも女性が増えてきました。廃棄物、ゴミの排出や分別のメッセージは、女性同士の方が伝わりやすい面があります。また、

女性同士だといろいろな悩み事も話しやすいということもありますね。

中川 出張しないコンサルタントは歌を歌わないカナリアのようなもの、などとよく思っているのですが、この仕事は出張が多い。私は5歳と3歳の2人の子どもがいるワーキングマザーですが、以前仕事でタイに行かなければならなくなった時、上の子を連れて行ったことがあります。ただ2人となると、連れて行くのはもう難しいですが。



はぶえり
土生 瑛里さん
三菱UFJリサーチ&
コンサルティング株式会社
政策研究事業本部 国際部
主任研究員

が 海外コンサルティング企業協会（E C F A）の仕事でした。コンサルタントについてよく知らないまま、企業やコンサルタントの方々と仕事をしていくうちにコンサルタントに魅力を感じ始めたのです。4年ほど勤めた後、専門をしつかり身に付けようと思い環境科学と環境工学の修士課程を修了して復職しました。その後、今の会社に転職し、コンサルタントの仕事を始めたいというわけです。

中川 業界全体に言えることでしようが、知的労働ながら負担が大きく残業も多く、報酬面でもバラ

色とは言えませんが、皆さん技術者として仕事が好きであるから、なんとか頑張っているという状態です。

とにかく、私生活と仕事や勉強の切り替えが大切です。若いうちから努力して、切り替え方を身に付けてほしいですね。現状を踏まえ、理想を追求する女性コンサルタントがますます増えるといいですね。皆さんのご健康とご活躍を願っています。

仕事と私生活 オンとオフの 切り替えが大事

辛いことも多いでしょうが、今後も開発コンサルタントを目指す女性が増えると思います。何かアドバイスをお願いします。

土生 第一に、必ず人に負けない専門分野を持って欲しい。それがないと生き残れません。

第二に、私生活を大切に。場合によっては死守する。つまり決して仕事やスケジュールに飲み込まれない姿勢を保つことです。

中川 おっしゃる通りですね。専門分野に関して言えば、仕事はいつも新しい技術と知識を要求します。それまでの自分の専門性に囚われず常に新しいことにトライできる積極性と融通性も必要ではないでしょうか。

小槻 専門を持ち、開発コンサルタントに一直線になろうというのももちろん有りでしょう。逆に、いろいろな経験をしながら実力を付け、おいおい仕事に就くという道もあるはず。急ぐ必要はありませんよ。



なかがわゆか
中川 由香さん
日本工営株式会社
コンサルタント海外カンパニー
新領域事業統括部
新エネルギー室

りませんよ。

中川 小槻さんがさきほど子育てのお話をしておられました。私の周囲で仕事と家庭を両立させている人の相手は、学生時代からのつきあいだったようです。仕事が忙しすぎて出張も多く、なかなか相手を捕まえられないので、結婚するのなら、相手を早めに探すこと。私生活と仕事の切り替えができる環境や、自分の仕事を理解してくれる相手とその家族は絶対必要だと感じます。

土生 仕事を続けて30歳代の中堅クラスになると忙しく、責任も重くなります。ですから若手に「なるべく早く結婚して！」と言っているんですよ。